

思いを伝える意味

伊勢原市立山王中学校

二年

伊藤

文乃

私の通学路にはヘルプマークのついた杖を  
ついている方がいます。学校へ向かう途中で  
よくその方に会います。その方に初めて出会  
う少し前にSNSでヘルプマークについて  
動画を見ました。なのでその方に出会い、  
ヘルプマークだということが分かりました。事  
に対して、私はその方について理解できたと思  
い込

み、満足気になりました。その後、この  
福祉作文の説明を先生からうけた時、これを  
良い機会としてもっとヘルプマークについて  
調べようと思いました。

ヘルプマークは体に障がいのある方や難病  
の方、妊娠初期の方など援助や配慮を必要と  
している人すべての方が対象です。また外見か  
らは分からなくても周囲の方からの援助や配  
慮が必要な人も多くいます。そのすべての方  
達が援助や配慮を受けやすくなるためにヘル

プマリークはあります。自分の口だけでは伝えられない事、伝わらない事がある中で、ヘルプマークの存在が大きな手助けをしています。自分の援助や配慮が必要な状況を周囲の方に伝え、周囲の方もヘルプマークをつけている人を見ると援助や配慮が必要なんだと理解できます。では、実際にヘルプマークをつけている人を見つけたらどうするべきなのか。一番身近にあり、誰でも経験するのは、電車やバスの中で席を譲ることだと思います。今ま

で何回も何回も教えられてきたことだけ、配慮が必要だからヘルプマークをつけているので当たり前前に譲れる環境を作ることが大切です。次に、駅や商業施設等で声をかける配慮が必要ですが、ただ、見つけたら必ず声をかけることは難しく、私も通学路で会う方に声をかけたことはありません。でも、困っている様子を見つけた時、助けを求めた時には必ず助けにいくことが大切です。ヘルプマークの裏にはその時にして欲しいことが書いてある

ることが多いのです。ヘルプマークの知識をもつことで、本当に助けが必要な時に助けられて、配慮もできます。最後に、災害時、安全は避難のための支援が必要です。これは災害時に限られますが、どんな状況でも声をかけるなどの配慮は必要です。ヘルプマークをつけている方は、災害時に自分の力だけで安全に避難をする事が難しい人も多いです。なので、その時の周囲の方の援助や配慮はとても大切です。

私が通学路で会う方は杖をついています。それだけでは目の障がいなのか、体の障がいなのかなどは、はっきりと理解しきれませんが、困っている様子を見つけた時、助けを求めた時、いつでも自分が助けに行きたいというバがまえでいたいのです。そのバがまえはヘルプマークをつけている方への援助、自分の自信にもつながります。見た目だけでは十分に相手に伝わらず、苦しんでいる人は沢山いると思います。その方達の中でも、感じ

方や考え方は一人一人に違いがあります。周囲の方からの援助や配慮が必要で、それを理解してもらうためのヘルプマークをつけていると思います。ただ、同じような思いでも外見からは相手に伝わらない方やヘルプマークをつけていない方もいると思います。その一人一人に対して耳をかたむけていくことはとても難しいことだと思います。今の私にできることを考えていく中で、まずできることは、目で見て相手に援助や配慮が必要なのかを伝わるようにヘルプマークをつけている方に対して理解していくことだと思います。初めて私がヘルプマークをつけた方に出会った時のように、ヘルプマークをつけている人に会い、ヘルプマークが分かった事に満足して、終わりにするのはいいかもしれません。ヘルプマークをつけている人はなんでつけているのか。それは私達に伝えたい事があり、伝わらない事もある中で周囲の方の援助と配慮が必要なんだという思いを伝えていけるからだと思います。